

台湾に日本産鶏卵を輸出 7月から時限的解禁

2022年7月から23年3月末まで、日本からの鶏卵輸入を時限的に解禁した台湾。台湾の鶏卵不足解消の一助となるべく、日本産鶏卵の輸入販売に取り組む台湾全農インターナショナル(株)の活動について紹介します。

台湾における 鶏卵の消費と需給

卵は広く台湾の食生活に浸透しており、年間1人あたりの鶏卵消費量は20.4kg(2021年)と、日本(17.2kg)を上回る数量となっています(図1)。長期的な統計データを見ると、戦後に消費量が伸びてきたことから食生活の多様化により、消費が増えてきた食品の1つといえます。

一方、供給面は、増える消費を生産の増加によってまかなっており、ほとんどが台湾で自給されています。しかし、22年に入り、特例的に日本から鶏卵の輸入を許可する

図1. 台湾における鶏卵需給状況 (参考)日本

	生産量 (t)	輸入量 (t)	輸出量 (t)	供給量 (t)	1人あたり供給量 (kg/年)	人口 (万人)	1人あたり供給量 (kg/年)
1960	-	-	-	-	1.6	1,079	6.3
1970	-	-	-	-	4.1	1,475	14.5
1980	-	-	-	-	8.0	1,787	14.3
1990	224,010	0	0	224,010	12.1	2,040	16.1
1995	317,699	0	0	317,699	16.2	2,136	17.2
2000	403,891	0	0	403,891	19.2	2,228	17.0
2005	358,494	0	0	358,494	16.8	2,277	16.6
2010	373,168	0	0	373,168	17.2	2,316	16.5
2015	386,050	37	14	386,073	17.3	2,349	16.9
2020	453,171	999	13	454,157	20.0	2,356	17.2
2021	461,669	483	1	462,151	20.4	2,338	17.2

(出典)台湾行政院農業委員会「糧食平衡表」、日本農林水産省「食料需給表」
(注)1人あたり供給量は、卵殻等を除く純食料ベース。台湾の1人あたり供給量は、あひるの卵等を含む「卵類」の数字。

ほど、供給が不足する事態となりました。

鶏卵の供給不足と 日本からの輸入解禁

22年の1~2月頃、台湾では春節(旧正月)を祝う特別な時期に



卵が売り切れたスーパー(2022年2月)

日本からの 鶏卵輸入の再解禁

3月末でいったん再禁止となっていた日本産鶏卵の輸入も、7月になると再び解禁されることになりました。

鶏卵の産地価格の推移を見ると、例年になく高い水準にあり(図4)、鶏卵の供給不足は明らかです。原

図3. 台湾の日本産鶏卵の輸入規制

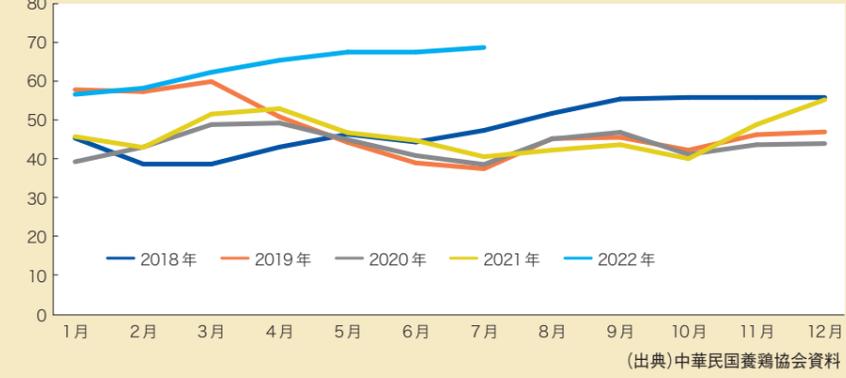
2015年10月9日	輸入解禁
2016年11月29日	日本での鳥インフルエンザ発生を受け輸入停止
2018年1月9日	輸入再開
2018年1月12日	日本での鳥インフルエンザ発生を受け輸入停止
2018年10月2日	輸入再開
2020年11月5日	日本での鳥インフルエンザ発生を受け輸入停止
2022年2月10日	鳥インフルエンザ発生県を除き輸入再開(同年3月末までの時限措置)
2022年7月27日	鳥インフルエンザ発生県を除き輸入再開(翌年3月末までの時限措置)

下が主な理由とされてきましたが、冬でも比較的气温の高い台湾にあって、高病原性鳥インフルエンザの影響が大きいとする声もありました。台湾政府はこの状況を受け、22年2月10日、米国、豪州、日本からの卵の輸入を許可しました。これまで、日本で鳥インフルエンザが発生すると日本全土からの輸入が禁止されてきましたが、22年の解禁では、鳥インフルエンザの発生県以外からの輸入が認められました(図3)。



日本産鶏卵を積んだコンテナ(2022年3月) デパートでの販売(2022年4月) コンビニでの販売(2022年4月)

図4. 台湾における鶏卵産地価格



(出典) 中華民国養鶏協会資料

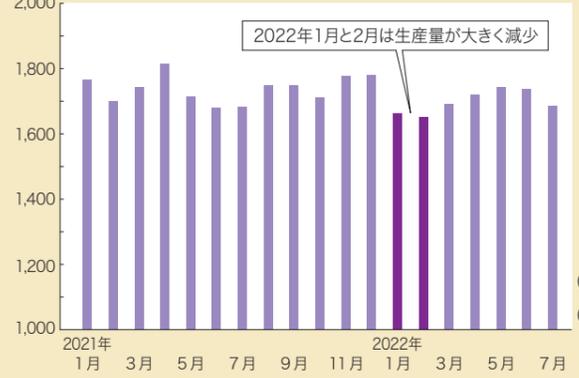
因としては、高温による産卵率の低下、鳥インフルエンザの蔓延が収まっていないことが報じられています。また、ヒナ不足から、養鶏場が採卵鶏を更新できないという状況もあるようです。

台湾政府としては、消費者が直接購入する小売用の卵は優先して流通させる一方で、業務向けは輸入で補う方針を取りました。2~3月の輸入解禁の際も、当社は日本から小売用のパック卵を輸入したにもかかわらず、引き合いが来るのは業務向けだったという経験があり、それも踏まえ、業務向けの販売を中心に輸出を検討することにしました。

そうした中、農業委員会(日本の農林水産省にあたる台湾の省庁)より、加工業者向けに供給する鶏卵の輸入について打診が入りました。同委員会向けには諸条件が合わず、供給には至りませんでした。同委員会より加工業者をご紹介いただき、取引に向けて商談を進めています。

台湾全農インターナショナルは、台湾の鶏卵不足解消の一助となるよう、日本産鶏卵の供給に取り組んでまいります。

図2. 台湾における1日あたり鶏卵生産量



(出典) 中華民国養鶏協会資料
(注)元データの単位は箱だが、1箱14.4kgとして重量換算した。